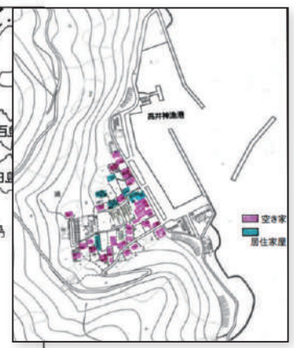
住まい活動助成

NPO法人 かみじま町空き家よくし隊

愛媛県上島町

「限界離島」の空き家を短期活用家屋に整備して関係人口の創出を試みる活動

瀬戸内海の離島、高井神島の港務所から集落を望む

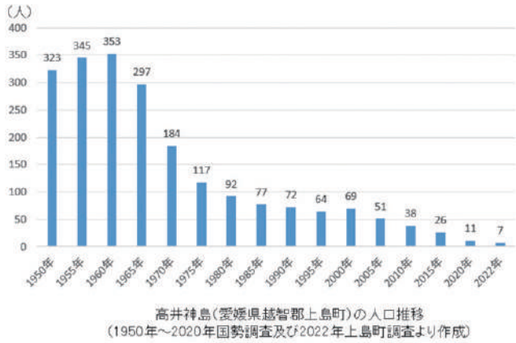


高井神島は、上島町の行政機能を担う弓削島から1日4便の旅客船で40～50分。21年に実施した実態調査（上）では、ピンク色で示した空き家の方が多いことが分かる

団体設立経緯

上島町は、愛媛県と広島県の県境に位置しており、瀬戸内海に浮かぶ25の離島（うち7が有人島）から構成されています。愛媛県今治市と広島県尾道市を結び「しまなみ海道」として親しまれる西瀬戸自動車道こそ、サイクリストの聖地として注目されているものの、そのすぐ隣にある上島町の島々に興味を持つ人はほとんどいません。観光地としても移住先としても存在感が薄く、造船業や漁業といった地場産業の衰退と人口の減少に、歯止めがかかる兆しはありません。

上島町の弓削島でゲストハウスや民宿を経営する私たちは2022年10月、町内で増える空き家の整備と、町への移住促進を目的として、**特定非営利活動法人かみじま町空き家よくし隊**（以下、よくし隊）としての法人登記を行い、本格的な活動を開始しました。



高井神島（愛媛県越智郡上島町）の人口推移
（1950年～2020年国勢調査及び2022年上島町調査より作成）

（左）「よくし隊」の主要メンバー　（右）高井神島の5年ごとの人口推移。1960年をピークとして減少の一途をたどる

活動概要と活動対象範囲

私たちが運営する宿の宿泊者の中には、「上島町に移住したい」という方が少なからずいらっしゃいます。しかしながら他の全国の過疎地域と同様に、上島町においても、「空き家はたくさんあるが、住むことのできる空き家がほとんどない」という状況にあるため、「住居が見つからず移住を断念する」という残念なケースが散見されます。そこで私たちは移住を後押しするために、①空き家を選定、②すぐに住むことのできる状態に整備、③移住希望者に貸し出す、という事業を手掛けることにしました。

活動の地理的な範囲は町内の全域としています。よくし隊所有となる最初の物件を22年度中に生名島において整備し、貸し出すことができました。

活動に至った理由や背景

上島町の有人島のひとつである**高井神島**は、現在の人口が7人、そのすべてが高齢者と、このままでは近いうちに無人島となってしまうことが明らかな、いわゆる「限界離島」です。よくし隊のメンバーはかねがね、「この島のために何かできないか」と考えていました。高井神島においても当然ながら、人が住まなくなった空き家の状態は、急速に悪化しています。

島の自治会長や、いわゆる「関係人口」として島の再興に尽力されている方とお話しする中で、港に面した比較的状態の良い1軒の空き家（以下、泉原邸）を、私たちで住むことができる状態に改修することを決めました。

活動の内容と成果

1. 物件の使用賃貸契約

よくし隊のメンバーは泉原邸改修の計画について、設立初年度の21年度中より、高井神島の住民・関係者と話し合いを重ねていました。同年度中に申請した22年度「住まいとコミュニティづくり活動助成」の採択を受け、22年4月より本事業を開始しました。

所有者との連絡と会計事務を、22年度末までの任期で上島町役場において島おこし協力隊（地域おこし協力隊）として勤務する事務局・平田が主に担当しました。高井神の自治会長の口利きがあり、所有者は事前に大筋を了承。正式な不動産使用賃貸契約を6月に締結しました。地域への貢献を目的として、無料で貸し出すという内容です。

2. 家財道具の撤去

泉原邸をすぐに使うことのできる状態に整備する一連の作業の指揮は、よくし隊理事長の川畑が担当しました。所有者との使用契約を締結した後、整備を開始しました。

まずは、空き家の残置物の撤去と、改修が必要となる箇所の確認です。泉原邸には家財道具一式が、そこで生活していた状態のまま残されていました。上島町では「燃えるゴミ」を、町が指定する有料のゴミ袋で出します。このゴミ出し作業には6月の丸々1カ月を費やし、70袋以上を島の指定された場所に搬出しました。

指定の袋に入らない家具などの粗大ゴミは、別の方法で出す必要があります。高井神島内にはゴミ

高井神島の玄関口に立地する空き家を借りて改修した

（上）2週間に1便のゴミ運搬船で、処理施設まで粗大ゴミを運んだ　（下）残置物を処分し、改修・整備を済ませた建物室内

処理施設はなく、上島町の粗大ゴミは弓削島にあるゴミ処理施設「上島クリーンセンター」に集められます。高井神島からは車に積んでフェリーで渡ることになりますが、車を運搬可能な定期旅客船は運行していないため、ゴミ処理業者に依頼する必要があります。

まず9月8日、大型コンテナ1基分の粗大ごみを出したところ3万8500円の経費がかかりました。それ以降は高井神島を所管する魚島支所の理解と協力を得て、2週間に一度のゴミ運搬船に私たちが所有する軽トラックを同乗させてもらうことで、経費節減を図りました。高井神のゴミ回収に日程を合わせて泉原邸の粗大ゴミを回収し、弓削島のクリーンセンターまで運ぶ作業を約3カ月間、12月7日まで繰り返しました。

3. 改修作業と備品の搬入

幸いなことに泉原邸の建物の状態は良く、構造体に対する大きな改修は必要ありませんでした。ただ、港に面した立地環境のためか、電気回線が傷んでおり、また古いタイプのトイレも交換する必要があると判断しました。故障していたエアコンを交換する必要もありました。この3つが、支出の大きな項目となりました。

半期ごとに使える予算が限られていたため、前期にエアコン、後期に電気回線とトイレに支出を配分しました。これらの工事は資格が必要となるため、専門業者に依頼しました。3つの項目で助成費をほぼ使い切ってしまったのですが、「すぐに住むことのできる状態」とするためには今後、寝具一式をそろえる必要もあります。加えて、キッチンに最低限の電気製品を設置することを予定しています。

4. 関係人口を創出していくための準備活動

本助成の事業名を、「『限界離島』の空き家を短期活用家屋に整備して関係人口の創出を試みる活動」としています。私たちは、泉原邸の整備は本事業全体の半分ほどのウエイトを占めているに過ぎず、より重要で難しいのは、後半の「関係人口の創出を試みる」方であると認識しています。整備した泉原邸をどのように活用すれば高井神島の関係人口の創出につながるのかについて、考えていく必要がありました。

愛媛県でNPO活動を所管する県民環境部県民生活局男女参画・県民協働課の「令和4年度愛媛県NPO法人活動助成事業（協働事業助成）」を得て、外部から専門家を招き、この課題について考えることができました。協力を依頼したのは、島根大学教育学部の作野広和教授と愛媛大学社会共創学部の渡邉敬逸准教授のお2人です。作野先生の専門領域は「離島・中山間地域における過疎化や集落の持続化」、渡邉先生は「農山村、特に過疎地域や被災地域など条件不利地域をフィールドとして、人と環境との関係を考える」研究に取り組んでいます。

9月15日から17日にかけて両先生が高井神島を、11月24日から25日にかけて渡邉先生が魚島を視察しました。さらに23年1月27日から29日まで、渡邉先生とゼミ生4人が高井神島など上島町に滞在。28日にはよくし隊として当法人メンバーとともに、上島町企画情報課が実施した高井神島での草刈りのボランティアに参加しました。

23年1月には専門家を招いて、島の未来を考える公開ワークショップを開催

そして29日には、魚島支所において公開ワークショップ「**みんなで考える10年後の高井神**」を開催しました。豪雪のため島根県から移動できなかった作野先生はオンラインで対応し、両先生とゼミ生、よくし隊メンバーのほか、町職員、県職員、高井神島に関心を寄せる方々など計11名が参加しました。このワークショップの様子は町のケーブルテレビでニュースとして放送され、高井神島について町民の関心を広く惹起できたと考えています。また、ここでの参加者の発言をすでにテキスト化しており、編集作業を経て、ワークショップの成果の報告書を作成する予定です。

5. まとめ

私たちが参画する高井神島社会の維持振興に向けた事業は、緒に就いたばかりです。22年度は本助成によって、私たちの活動の拠点施設となる泉原邸を整備することができ、また県助成により大学の専門家や学生が来島。調査とワークショップを実施・開催することができ、高井神島でどのように活動していくのかについて考え始める大きなきっかけとなりました。

一方、住民が高齢者ばかりとなった高井神島では、漁業を中心とした地場の産業は人口減少によっていったん途絶えてしまっており、飲食店や小売店もありません。新たに移住希望者があったとしても、島で生活を続けていくのは非常に困難であると言わざるを得ません。また、休校となっていた高井神小・中学校については23年3月中の町議会で廃校が確定し、跡地活用の公募が始まっています。学校の廃校決定により、島への子供連れでの移住はより困難になったと言えます。

衰退の一途をたどっているように見える高井神島の地域社会ではありますが、22年度中に活動拠点施設を整備することができ、関わりを持つ人たちの広がりを得ました。よくし隊メンバーは23年度にも、ますます高井神島との関わりを深め、私たちが採り得る選択肢としてどのようなものがあるのか、模索しながら実行し、島の未来を考え続けます。

6. 協力団体など

高井神地区自治会／上島町総務部企画情報課／上島町魚島支所／愛媛県県民環境部県民生活局男女参画・県民協働課／島根大学教育学部／愛媛大学社会共創学部／オムグループ（株式会社たけまる）

課題と解決方策

泉原邸の整備過程において最初にぶつかった課題が、建物内に大量に残された家財道具、特に家具などの粗大ゴミの処理でした。魚島支所の全面的な協力を得ましたが、すべての処理を完了したのは12月に入ってからでした。離島における空き家のゴミ処理が非常に困難であることを実感しました。

最大で未解決の難問が、産業が無く、飲食店や小売店も無く、小・中学校も廃校となる高井神島で、社会（集落）をどのように維持していくのか、ということです。ただ単に、誰かが住民票を移せばいい、というものではなさそうです。

島の社会を実質的に支え続けるためには、集落内の道路を維持し、神社の境内と参道を維持し、島の灯台までの道も整備するなどの活動を続ける必要があります。何とかまだ使える状態の空き家の維持・管理、寄港する定期船の受け入れ、郵便物や宅配を受け取ることも必要です。集落に侵入しようとするイノシシの防御柵も、修繕し維持していかなければなりません。これらは主に、行政ではなく自治会が担っていた機能です。このような集落としての最低限の機能を維持する方法について、引き続き考えていきます。

今後の予定

これからの実施事項としてまずは、1月29日に実施したワークショップ「みんなで考える10年後の高井神」の内容を伝える冊子を作成して印刷し、町内外の関係者と共有します。また泉原邸に設置する寝具など必要な備品・消耗品を購入して設置し、私たちが島に泊まって建物を使用し作業することのできる状態にします。

高井神島の振興に関わるオムグループや関係者により、主に「民宿なたおれの木」の運営を目的として設立された一般社団法人なたおれの木では、空き家にマンガ壁画を描いて高井神島を「マンガの島」として打ち出す活動の強化を目指しています。よくし隊として、これらの活動とどのように関わるべきか協議していきます。

特定非営利活動法人かみじま町空き家よくし隊

2021年9月設立、22年10月法人化／メンバー数:10人／代表者:川畑 良文（かわばた・よしふみ）

●〒794-2506　愛媛県越智郡上島町弓削下弓削420-2

akiyayokushitai@gmail.com　www.facebook.com/akiyayokushitai/

私たちは、愛媛県越智郡上島町において、空き家を改修してすぐに住むことのできる状態に整備するなど、町への移住や町外人口の関係人口化を促進するために活動しています。